

校長室だより No 25

2019年2月26日

柏市立酒井根東小学校

<http://www.sakainee-e.kashiwa.ed.jp/>

校長 梅津 健志

「2020年教育は変わります 東小はここを変えます」

2020年から新しい学習指導要領での教育が始まります。

そして、大学の入学試験が大きく変わり始めることが伝えられています。今年卒業する6年生が新しい学習指導要領の第一期生として、新しい大学入試に臨むことになります。

学習指導要領が変わるのは、この先の世の中が変わるので、それに合わせて教育内容を変えるのです。

学習指導要領を作成する答申にはこう書かれています。

人工知能がいかにかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができる。多様な文脈が複雑に入り交じた環境の中でも、場面や状況を理解して自ら目的を設定し、その目的に応じた必要な情報を見だし、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したり、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができるという強みを持っている。

このために必要な力を成長の中で育てているのが、人間の学習である。…新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付け、子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。

社会や産業の構造が変化し、質的な豊かさが成長を支える成熟社会に移行していく中で、特定の既存組織のこれまでの在り方を前提としてどのように生きるかだけでなく、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力の育成が社会的な要請となっている。

これからの社会で生きる力を身に付けさせることの一つとして、「多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見出す」「予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い」ということが学校生活の中でも重要視されてきます。さらに成人年齢が18歳に引き下げられ、今までよりも早く大人に成長させることが求められています。

そこで・・・

酒井根東小では、2020年から先は毎年学級編成替えを行い、いろいろな友達と力を合わせて目標を達成していく教育活動を行っていきます。

子供にとっては、気の合う友達とその逆の友達があります。親は気の合う友達と過ごしてほしいと思います。毎年学級編成を行うと、6回のクラス編成となり、同級生のほとんどの子と同級になる可能性があります。

保護者から学校への要望の中に、特定の個人名を挙げて同じクラスにしないで欲しいというものがあります。強い要望がある場合には、トラブルのいきさつをお伺いして、慎重に対応をして参りますが、子供だからこそ人間関係を修正しながら成長する力を持っていると考えます。それを大人たちが見守り、子供の成長を妨げないように、いじめなどに発展しないようにしたいと思います。2019年を猶予期間としますので、毎年の学級編成替えについてご意見がある方はお寄せください。